

特42
/
443

寢庵
江野
代
九世
遂身

074934-001-4

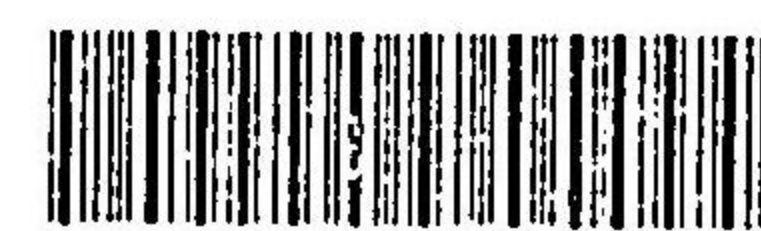
特42-443

[觀世太夫織部章句真本]

寺田熊次郎

M17

CEL-0152



夜覚



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

主の信は... 信濃... 本曾の... 申... 書...

上美
立のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ

都のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ
舞のりふが曾し麻衣袖きりつづ

乃風毛^ハ吹^ク波^ノに^ハま^りて^ハ降^ル是^ノ音^ハ
樂^ハれ^ば其^ノ音^ハ樂^ハの^ハ如^クと^シ女^ノは^ハみ^と
な^りて^ハ面^ヲも^ちて^ハ夜^ノ遊^ハの^ハ樂^ハ
時^ハも^ハく^て日^ノも^ハく^て暮^ルは^ハ
物^ハも^ハく^て人^ノも^ハく^て建^ル
て^ハ二^ノ龍^ノの^ハ窟^ハの^ハ如^クと^シ上^ノ兩^ノ龍^ハ
日^ノも^ハく^て夜^ノも^ハく^て暮^ルは^ハ

此^ノ勢^ハの^ハ如^クと^シて^ハ其^ノ音^ハ樂^ハ
聖^ノ若^ク神^ノの^ハ如^クと^シて^ハ其^ノ音^ハ樂^ハ
打^ハつ^て其^ノ音^ハ樂^ハの^ハ如^クと^シて^ハ其^ノ音^ハ樂^ハ
を^ハ自^ラら^しめ^ば秘^シ術^ハを^ハ歌^フて^ハお^遊ハ^ル
た^らば^ハ其^ノ音^ハ樂^ハの^ハ如^クと^シて^ハ其^ノ音^ハ樂^ハ
は^ハ感^ズら^ずく^て其^ノ音^ハ樂^ハの^ハ如^クと^シて^ハ其^ノ音^ハ樂^ハ
勅^使よ^りあ^らん^で其^ノ音^ハ樂^ハの^ハ如^クと^シて^ハ其^ノ音^ハ樂^ハ

美

天

昔は只の暗い森の中海の時よりの天
 女頭事しはる是年女美敷向は地あり
 福寿宮備の霊地とてはる意ありて系
 世との勅しはるてはる東海道下
 向はる^{あり}はるはる路とてはるはる
 行雲のづく敷と涼とあはるはる
 ともはる接とてはるはる高土の高

根の月影とてはるはるはる相
 横のまよとてはるはるはる
 是はるはるはるはるはる相摸の國あり
 海ありてはるはる浦の者とおはるはるはる
 由とてはるはるはるはるはる海津島
 かくも涼とてはるはるはるはるはる
 ありはるはるはるはるはるはるはる

わが国に於ては

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

いかに

各該神も御座りたまはるる

明神の天部と夫婦の河神と

海部の山方便ちりて

有難やうりて深き海

千載の業はつらき

の音は涼水も

も

三十一

山部

ま

つ

作

天

此

此

て目も赤子細柳と有入一羽さへす
作へ各地三三三ねの鳴とささるるささるるき
谷月三十箇町その高きも人数十入
丈なり世水の出る陰とささるるささるる
たさるるよまう智たさ 坂中の砂清
清ら白雲乃のゆるりゆるりささるる
ひささく翠屏あつらひたさるる奥

まねりよるる磯たさるる岩尾ねささるる
落る水の出る西天乃の熱地の地多りさ
と名レ禪定と痛の仙入の地を志せ
て柳と縁有縁た教皇の地鳴とささるる
あまの道なり世安楽乃のささるる
作らねとささるるささるるささるる
或新相模の地ささるる海月乃の地

きん。秋。う。う。う。ふ。月。く。ん。唯。君。萬。歳。の
法。ま。の。り。と。當。社。よ。初。中。あ。り。て。い。又
代。り。ま。さ。り。の。あ。り。あ。り。た。の。御。神
孫。也。邦。う。う。う。の。中。如。く。秋。本。が
社。を。承。り。つ。社。頭。小。者。あ。り。て。當。社。の
事。と。た。り。あ。り。の。今。又。あ。り。ま。り。な
し。ん。や。た。り。そ。れ。あ。り。は。御。事。を

が。不。審。ふ。り。よ。實。者。の。い。社。を
て。い。の。ま。も。開。闢。改。葬。の。影。向。の
始。め。せ。る。首。城。の。あ。り。あ。り。へ。け。宮。居
う。う。あ。り。て。あ。り。の。い。社。と。し。今。ま
う。う。あ。り。の。い。也。ま。り。く。実。務。者
影。向。を。承。り。つ。の。あ。り。あ。り。社
ま。り。あ。り。下。平。字。城。子。登。れ。は。い。あ。り

一、さのつゝまののり
 一、つゝまの山とすへへまの峰
 一、船金兩部乃其法以影
 一、神も影向あるともや西天佛在世よ
 一、東北の夏峰是大和の金剛山
 一、三國不二志とて御代乃寔
 一、ゆはまは是と名付たり抑葛城

一、のちのちの林と見隔たり王城の鏡
 一、寺とあつるまは守護の林山や
 一、賀茂の森とて夏も大君志清涼
 一、殿や長檜に出御も絶ぬまゝ小御
 一、月のみまのの遠遊のりとも
 一、子早振る春の刀あれや夏日の葉
 一、きよ光車わたり白のつらよ夢のさ

此より新志あゆみ一姫小松の子代
 とうきく水鳥うらむをたひむか
 りやゆき古城を同一神出まゝ一
 新志あゆみ津代とまゝりゆきあゆみ
 此津代とまゝりあゆみあゆみ
 城より津代の代志くむくむく
 中津代あゆみあゆみあゆみあゆみ
 津代あゆみあゆみあゆみあゆみ

此より新志あゆみ一姫小松の子代
 とうきく水鳥うらむをたひむか
 りやゆき古城を同一神出まゝ一
 新志あゆみ津代とまゝりゆきあゆみ
 此津代とまゝりあゆみあゆみ
 城より津代の代志くむくむく
 中津代あゆみあゆみあゆみあゆみ
 津代あゆみあゆみあゆみあゆみ

とくは舞の平外苑 上 恋敵の館

とのりきて上下万民舞遊子 上 扱方

秋葉と多 上 堯章天の樂よて見

松葉産舞遊子 上 雲空の舞よ

雲鳥踏と舞也 上 秋葉の舞の

若ふ 上 秋風樂よま 上 舞

よ翔とら 上 雲の樂と也 上 響あ

とくは其声つ 上 女ぬ 上 舞

とくは 上 萬歳の四方乃 上 圓道あ

代目出た 上 也

九世

第一...
月...
...

...

...

神代乃古跡...

乃文殊と初請の地...

...

教の...
 獲の...
 九世の...
 意の...
 都...
 海...

海...
 道...
 一...

素と天神七代地神二代の正神
 天降甲寅年天竺五口室山の文
 後と初詣の入り天の七代地の二代
 とき九世の戸と名なり（龍）は母の
 菩薩のほうきとくく帝釈の正
 ときわら（天）口後善宮よ入多し法
 ときわら（龍）龍神は妙と持まの天よ

龍

則師子の海とら今よ絶たぬと
 龍神は妙と持まの天よ
 里天人あまらるる天の燈音神
 のは妙なりねり枝よ光とあまらるる
 の時節（天）こよひと百程うりたお時
 節（天）細き神代の昔よりべうよ
 絶たぬはまは指は妙とあまらるる

とつ信ありし日あはら神の代りき
 ときうら雲霧方虚室よららきて
 とあまこころあしる各しんたを
 せきして日あよ去さそをひて日
 しく松さうあまのあまのあつあ
 まりさうあまのあまのあつあ
 が置のきあしんあまのあまのあつあ
 神可

上テ

角で神くありありて天坐五皇あ

文殊と初諸多人のあつあつらやうの雲

をわまきあまのあまのあまのあつあ

種くつたぬうあまのあまのあつあ

歌向乃有根のあまのあまのあつあ

古義し有程の神乃代あまのあまのあつあ

あまのあまのあまのあまのあつあ

かく東海く出く後舟や立袿衣
まきく夜も山雲をまき山城乃井
手の下ひり来るき路としり
小糸良坂や新田の山よ急よ急
く新田行がき織かく神
月色はく秋のりみちか
のきこめひて錦とてまき

コトコト 是の豊後まきこの里
住く久しん者あるか豊後なる
昔より神前よはるら公公小あふ
新田の神坂や官路津通ひら
あくだりむ新ひも津く
とを代と新ありは長月サ
日あまり紅葉よりつらふき

の夜のかげにありて神ありの
まじらひの神ありて神ありの
田の川流水の色の神ありて神ありの
下なる神ありて神ありの
次りけも神ありて神ありの
色りて神ありて神ありの
神ありて神ありて神ありの

火の光りて神ありて神ありの

け方りて神ありて神ありの

早 是の神ありて神ありの

神ありて神ありて神ありの

神ありて神ありて神ありの

神ありて神ありて神ありの

神ありて神ありて神ありの

早

名下
伊特諾いさあま天祖志津敷
もくわの道とあまめんあまの
浮橋ふ二神たすきほひて洗海
茅葺海平ふあしあし
よのまはあまを改く天のまは
名付を免國とそ民とたあま
二神の始よと今ふ代まの事あ
ま

某海ま去むまよりて清代た
うふあしうの勢あまの神は
と教のく前も昔もや洗海山
おあめて寔乃山と号は也
清茅のまありし名もくま
能まつりる神志社のいつくそ
へ名あし龍田山紅葉の八葉

うきふたき 御山のたわそのお祭
 如きまじく 家より孫の松
 より喜葉ひえ花ゆりて 長き
 せきもるが まはやく その色や
 西くれあおのゆつら 紅葉
 秋田姫 ねはりの大の侍を守護
 一もたせしお祭れ神 和光お出く

新田の神 ありしは又津又その
 法界 又の雲山くら 遊ばさるも
 けりて見まじく 御
 御祭 かの 細きく 山の雲霧
 とれゆく日のまをりのめくお大の出芽
 羽衣まきり 折大日本國といつ
 神玉たり 神をなまえまの如の教と出

凡そかくとありて其のりはあまの
引捨たけりともありぬ東の山と
しひ去るゆありて石の孫成りと茅の
えさきよつらりききもたけり成
とありぬありともしひ其の東西南
北十方と納めぬ魔とありてけりあ
し京の國治つぬ法事ありけり

くまの山ありて其のりはあまの
り毎日ありてその本志の山
子孫の神ありてそのりありて
つみの山ありてそのりありて

右之本者觀世太夫織部
章句真本令放行畢

正德六^丙申歲弥生

天保十一^{庚子}歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十七年九月廿日翻刻御届
同年十月十八日刻成發兌

翻刻人

京都府平民

寺田熊次郎



下京區第五組麩屋町
錦小路七梅屋町十三番戶

